

「風街タヤケマルシェ」が 1周年を迎える

前橋中心商店街(協)他

6月26日、前橋中央通り商店街において、「風街タヤケマルシェ」の1周年記念回を開催した。

このマルシェは、平日夕暮れ時の前橋市街地のにぎわい創出を目指して、昨年6月より毎週金曜日の午後4時から前橋市中心市街地内の中央通り商店街や周辺の通り等で開催されてきた。マルシェの開催にあたりテーマ設定がなされることもあり、「花見とライブ」、「サンタコンテスト」、「ハロウィン」といった季節のイベントの他、「カレーとスパイス」や「オーガニック」、「お酒と音楽と古着」などのユニークなテーマで催されたこともある。これまでに40回以上の開催を重ねており、街なかの週末イベントとして定着しつつある。

今回は1周年記念回として過去最大規模の出店者数での実施となった。アーケードの下に飲食物や雑貨、占い、リラクゼーションなど約120店が並び、1周年を華やかに彩った。会場では、DJによる音楽が流れる中、食事やお買い物等を楽しむ来場者で大盛況となった。



多くの来場者でにぎわうアーケードと音楽で盛り上げるDJ

事業承継について講習会を開催

群馬県菓子(工)

7月1日、草津町・喜びの宿高松において、「今から考える事業承継～その時までにすべきことは～」をテーマに講習会を開催した。講師は、(公財)群馬県産業支援機構群馬県事業承継・引継ぎ支援センターの浦部充弘氏。

浦部氏は、親族内での承継とM&Aについてそれぞれの



講師の浦部氏



メリットとデメリットを説明し、誰に事業を承継するかは慎重に決定すべきであると述べた。

また、かつては親族内承継が一般的であったが、近年では親族外の承継が3割を超え、事業承継の有力な選択肢となっていることを紹介した。

特に菓子製造業者では、会社の強みとなる知的財産を十分に把握する必要があると、経営者の頭の中にある知的財産やノウハウを見える化し、現経営者と後継者がお互いの理解を深めることが重要であると解説した。

AIを活用した実務改善について 講習会を開催

太田流通センター卸(協)

7月7日、太田市・東毛産業技術センターにおいて、「AIは仕事道具から社会基盤へ」をテーマに講習会を開催した。講師は、CommStep合同会社・代表社員の豊田幸弘氏。

豊田氏は、AIは進化を経て、人が操作する仕事道具としての役割から、人と協働する社会基盤へと変わりつつあると説明。次いで、OpenAI社のChatGPTやAnthropic社のClaudeといったAIサービスごとの特性を紹介。各AIサービスで得意分野が異なるため、目的に応じて使い分ける工夫が必要であると述べた。

さらに、AI活用で仕事の進め方は大きく変化し、これまでは人間が行っていた“調べる・まとめる・計算する”といった業務はAIが担い、人間はAIが作成したものを基に判断・修正することになると解説。AIは単なる業務の効率化ではなく、仕事そのものの構造や役割を変える存在であり、正しく理解して活用していくことが重要で

Local Area News

あると説いた。

その後、参加者等が実際にA Iを使用した際の
問題点や課題などを質疑応答により個別に回答・
解説を行うと
ともに、豊田
氏が支援した
企業のA I活
用事例を紹介
し、A I導入
における実務
上の課題など
を解説した。



A I 活用事例を熱心に聞く参加者

生成A Iの活用について講習会を開催 高崎卸商社街(協)

7月7日、高崎市・ビエント高崎において、「人
を育てずして、A Iの成功なし」をテーマに講習
会を開催した。講師は、群馬インターネット株式
会社代表取締役の田村吉章氏。

田村氏は、生成A Iが従来の「ブラウザ上での
チャット(相談相手)」から、デスクトップアプリ
を介して自律的に「仕事を進めるエージェント(相
棒)」へ劇的に変化していることを解説。目的を
伝え、必要なファイルを読み込ませるだけで、調
査や情報整理、資料作成を行い、完成したファイ
ルを指定フォルダへ保存することまで可能になっ
ていると説明した。

また、A Iは企業の競争力を飛躍的に高める有
効なツールである一方、それを使いこなすのは人
間であると強調。A Iの回答をそのまま使用して
しまう「コピペ社員」が発生してしまうと、会社

の信頼を棄損する事態を引き起こしかねないこと
を注意喚起した。

A Iは会社を劇的に強くする道具であるが、使
用するのは人間であることを忘れてはならない。
日本語力や論理的思考力、専門知識、責任感を備
えた人材の育成こそが、A I活用を成功へ導く第
一步であると説いた。



最後には実践的な質疑が活発に行われた

幕末の改革者・小栗上野介に学ぶ

ぐんまみらい(信)

7月16日、高崎市・ホテルグランビュー高崎
において、「幕府の運命、日本の運命～小栗上野
介の日本改造～」をテーマに講習会を開催した。
講師は、曹洞宗東善寺住職の村上泰賢氏。

小栗上野介忠順(ただまさ)は、来年放送予定の
大河ドラマ「逆賊の幕臣」において主人公として
取り上げられる人物。晩年は高崎市倉渕町で過
しており、高崎市ゆかりの人物として注目を集め
ている。

村上氏は、小栗上野介が激動の幕末期に勘定奉
行や外国奉行などの要職を歴任し、卓越した先見
性をもって日本近代化の礎を築いた人物であると
説明。また、政治、軍事、経済、教育など幅広い
分野で数々の改革を構想・推進し、日本の近代化
に大きく貢献したことを紹介した。特に、「横須賀製鉄所」は
明治以降の日本の造
船業や重工業の発展
を支える技術者の育
成機関となり、日本
の産業革命の原動力
となったことを解説
した。



講演会には約180名が参加